学会活動について

言語処理学会が発足して 1 年が経過しました．その間，本誌 「自然言語処理」の発刊および第 1 回年次大会の開催と，学会活動として，まずまずの滑り出しだったと思います．小生は事業担当理事として，主に年次大会の開催を担当しました．皆様もご存じのとおり，年次大会は，2 日間に亘って，2 件の招待講演と 92 件の一般発表が行なわれ，315 名の参加を得て盛会裡に終了することができました．また，事前に行なわれた 3 件のチュートリアルにも 107 名の参加がありました．特に学生の参加が多く，本学会の将来にとって楽しみなことです．

大会での発表は，情報工学の研究者・技術者からのものが多く，言語学の研究者からのものが比較的少なかったのは，会員構成上やむをえないとは言え，少し残念なことでした．情報処理技術者と言語研究者との議論が，自然言語処理の分野に新しい風を吹き込む可能性があること，また，近年，言語学における計算機の利用が盛んであることを考えると，言語研究者からの発表が，今後増えることを期待しております．ただ，このとき注意しなければならないことが一つあると思います．それは，情報工学と言語学の文化の違いです．生まれも育ちも違う 2 つの学問分野の人が議論するわけですから，ややもすると誤解や行き違いが生じやすくなります．議論に当たっては，相手の身になって丁寧に分かりやすく説明することが肝要でしょう．

さて，2 年目にはいった学会の活動としては，会誌の発行，大会の開催に加えて，言語データベースの提供支援を行なう予定です．詳しくは，ニュースレターに掲載されますが，このようなことを含めて，徐々に活動の規模を拡大して行くことも，学会に課せられた今後の課題であると認識しております．会員の皆様から，学会活動へ対するご要望がありましたら，是非お聞かせいただきたいと思います．本学会は，会員数も数 100 名と，規模が小さいですから，会員一人一人の意見を活動に反映できるチャンスは逆に大きいとお考え下さい．会員の力を合わせて，満 1 才になった学会を立派に育てていこうではありませんか．そのために小生も微力を尽くしたいと思います．

第 2 回の年次大会は，ご案内のとおり，来年 3 月 25 日から 27 日にかけて，再度，東京工業大学で行ないます．前回にもまして，多くの方々の参加を期待いたします．また，チュートリアルや招待講演に対するご希望も，お寄せいただければ結構です．

江原　暉将
NHK 放送技術研究所
先端制作技術研究部